

乾燥野菜から農薬、ただし基準値以下

～残留農薬テスト～

手軽に使い、日持ちすることから乾燥野菜の需用が増えています。他県の残留農薬調査結果の中に、乾燥野菜から数種類の農薬が検出された事例があり、厚生労働省の輸入食品の食品衛生法違反事例の中にも乾燥野菜の残留農薬について違反事例が見られます。そこで、市販されている乾燥野菜の残留農薬についてテストしました。



テスト品目

乾燥野菜21銘柄

(ネギ2、パセリ2、ヨモギ粉1、ハウレンソウ1、ダイコン葉1、切り干しダイコン2、イモがら2、トマト2、キク1、シイタケ2、キクラゲ4、ヤマドリダケ1) = いずれも札幌市内のスーパーやデパートで購入

テスト項目

残留農薬197種類

(有機リン系61種類、カーバメート系19種類、有機塩素系16種類、ピレスロイド系15種類、含窒素系54種類、その他32種類)

テスト結果

No.7のダイコン葉からフェンバレーレートが0.02ppm、No.14のキクからシベルメトリンが3.18ppm、それぞれ検出されました。いずれも国産でした。

検出されたのはどちらもピレスロイド系農薬の殺虫剤で、多くの野菜や果物に使用が許可されています。特にシベルメトリンは、平成20年12月に厚生労働省が公表した「平成16年度農産物中の残留農薬検査結果」で検出割合の高い農薬の一つとなっています。

食品衛生法に基づく残留農薬基準は、フェンバレーレートは「ダイコン類の葉」で8ppm、

シベルメトリンは「その他のキク科野菜」で5ppmであり、いずれも基準値を下回っていました。

表示

食品衛生法およびJAS法の加工食品品質表示基準に基づく表示（名称、原材料名、内容量、賞味期限、保存方法、製造業者等の氏名または名称および住所、輸入品にあっては原産国名）はすべてにありました。

また、国内で製造された場合には、主な原材料の原産地（原料原産地名）の表示が必要です。

まとめ

乾燥野菜21銘柄について、197種類の残留農薬テストを行った結果、国産の2銘柄からそれぞれ1種類の農薬が検出されました。いずれも食品衛生法に基づく残留農薬基準を下回っていました。

厚生労働省が公表している輸入食品の監視状況を見ると、*ポジティブリスト制度施行後、残留農薬に係わる違反件数が急増しました。今後も国産品を含め、厳重な監視体制が必要と思われます。

乾燥野菜の残留農薬テスト結果

No.	商品名	原産国名または原料原産地名	加工・製造・販売 又は輸入者	テスト結果
1	薬味ねぎ	中国	くまだ(株)	不検出
2	あさつきねぎ	ペルー	(株)浜乙女	不検出
3	パセリ	アメリカ	ユウキ食品(株)	不検出
4	パセリ	アメリカ	朝岡スパイス(株)	不検出
5	よもぎ粉	中国	山眞産業(株)	不検出
6	ほうれん草	熊本県	吉良食品(株)	不検出
7	だいこん菜	熊本県	(株)真田	フェンバレレート 0.02ppm
8	切り干し大根	中国	(株)丸晶	不検出
9	切り干し大根	中国	A TEC (株)	不検出
10	芋がら(割菜・ずいき)	タイ	森商店	不検出
11	わりな ずいき・芋がら	タイ	(株)真田	不検出
12	"SONOMA" ドライトマト	アメリカ	(株)鈴商	不検出
13	ドライチェリートマト	イタリア	モンテ物産(株)	不検出
14	ほし菊	青森県	JA まべち	シベルメトリン 3.18ppm
15	椎茸(どんこ)	中国	(株)丸晶	不検出
16	椎茸	中国	(株)和興商会	不検出
17	森のわらべ きくらげ	中国	(株)宮崎経済連直販	不検出
18	黒きくらげ	中国	(株)ドースイ	不検出
19	銀耳 白きくらげ	中国	丸成商事(株)	不検出
20	白きくらげ	中国	ベストプラネット(株)	不検出
21	ポルチーニ(ヤマドリタケ)	イタリア	モンテ物産(株)	不検出

※ポジティブリスト制度とは…食品中に残留する農薬、飼料添加物および動物用医薬品の新しい基準。平成18年5月29日施行。ポジティブリスト制度で約800成分に残留基準が設定されました。さらに残留基準がない農薬、動物用医薬品等については、「0.01ppm」の一律基準を設け、違反した食品は販売等を原則禁止する制度です。

ポジティブリスト制度施行（平成18年5月29日）
前後における1カ月の平均違反件数（平成17年度比）

分類	平成17年度 (H17.4~18.3)	平成18年度 (H18.6~19.3)	平成19年度 (H19.4~20.3)
残留農薬	4.8	44.7 (9.4倍)	22.1 (4.6倍)
残留 動物用医薬品	4.5	23.2 (5.2倍)	13.2 (2.9倍)
合計	9.3	67.9 (7.3倍)	35.3 (3.8倍)